

**令和2年度学校関係者評価**  
中央調理製菓専門学校静岡校 製菓衛生師科

令和2年度学校関係者評価委員

■保護者

製菓衛生師科2年生 中島 小由希 保護者

中島 英貴 様

■企業関係者

静岡県洋菓子協会 副会長

望月 通喜 様

■他校関係者

中央歯科衛生士調理製菓専門学校 調理製菓総合学科長

高橋 涉 様

1. 教育理念・目標

【自己評価結果】		平均
1	教育理念並びに教育目標が明確に示されているか。	A
2	教育目標は卒業時の到達が読み取れるものになっているか。	A
3	教育理念並びに教育目標が教職員・学生に浸透しているか。	A
4	組織での目標設定が適切にされ、実行できたか。	A
5	鈴木学園クレドは教職員に浸透し、実践されているか。	A
【現状の問題点】		
年々教育目標が明確に日々の教育に活かされるようになってきている。今後は修学成果の可視化に向けた具体的な取り組みが望まれる		
【改善のための方策】		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・どのイベントがどのように効果を出しているのか、また、ねらいや目的は何か、しっかりと図に表していく。点で点在していたものを線でつなぎ、それぞれの活動がより効果的な役割を果たせるように可視化していく。</li> <li>・学生クレドにおいて2年生が三唱する機会が少なかった為、実習前にも衛生クレドと一緒に三唱し、日常的にクレドの心得をとり入れていく。</li> </ul>		
【関係者評価】		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価者の分母が同じだが、メンバーが入れ替わっている。経験ある教員から新任に入れ替わった為、浸透していないところがある。</li> <li>・カリキュラムマップの作成、話し合いを行い、狙いに沿った教育をしていく。</li> <li>・学生にもクレドを浸透させる。(コロナ禍で大きな声は出せないが、一人一人が心に刻むように唱和している)</li> </ul>		

2. 学校運営

【自己評価結果】		平均
5	目標を達成するための事業計画が策定されているか	A
6	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか。	A
7	情報システム化等による業務の効率化が図られているか。	A
8	就業規則などの諸規定は適切に整備されているか。	A
9	組織内の連携は適切に図られているか。	A
10	上司の指示は適切にされているか	A
11	上司は提案を受け入れてくれているか	A
12	職場内での教職員教育・指導は充分なされているか。	A
13	BSCは適切に活用されているか。	A
【現状の問題点】		
教員数が多くなり、情報の共有が難しくなりつつある。また、学科を越えた情報共有や仕様の統一、各種の研修を計画したい		
【改善のための方策】		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・職務内容の共有を徹底し、お互いに仕事の可視化を強化することで二重の仕事や余分な仕事を排除していく。</li> <li>・BSC目標と施策を念頭に置き、教職員で活用していく。</li> </ul>		
【関係者評価】		
・スプレッドシートでリアルタイムの情報共有、相手の仕事を知る		

3. 教育活動		
【自己評価結果】		平均
14	授業評価の実施・評価体制はあるか	A
15	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	A
16	資格試験の合格率は他校と比較して妥当か。	A
17	資格試験の不合格者の対策は適切に行われているか。	A
18	関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	A
19	目標に到達しない学生には対し適切なフォローがなされているか。	A
20	職員の能力開発のために研修等を実施若しくは派遣しているか	A
20	シラバスは十分に検討し作成されていたか。	A
21	シラバスの内容見直しについて教員間で検討されていたか。	A
22	教務の問題について、組織内で適切に話し合われているか	A
23	十分に余裕を持って教育行事の準備が出来ているか。	A
24	学生による学校評価を反省し、事後の教務を改善しているか。	A
【現状の問題点】		
学修成果は高いレベルで達成されている。今後はこれを可視化させる取り組みが必要。		
【改善のための方策】		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習では手厚い体制で学生一人一人に向き合って指導していく。</li> <li>・教育行事に対してのそれぞれやるべきことが把握できているので、なぜやるのか目的をはっきりとさせて論点がそれない様に教員が動いて行く。</li> <li>・学修成果の到達点やその道筋を可視化させていく。</li> </ul>		
【関係者評価】		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・なぜやるのかを明確化し、新しく加わった教員との連携を強化する。</li> <li>・2か月の休校でタイトなスケジュールになっている。行事やHRが減っている。</li> <li>・1年次は東京研修があったが、2年次はキャンセルになった。入学前からアナウンスがあり、他の学校と比較してもイベントが多いことが入学の決め手にもなったいて、楽しみにしていた行事がなくなり残念だった。</li> <li>・三島校は逆に元イベントが少なく、今回コロナ禍でキャンセルが出ても学生は何も言わなかった。静岡校はそれだけイベントが充実している証拠。</li> <li>・2年生は5月の伊勢丹販売で菓子販売について深掘りをしている。今回それが出来なかった。教員も本来なら休暇中に食べ歩きをするが、コロナ禍で動き回ることが制限され勉強ができていない。</li> <li>・街中での企業連携は政令指定都市の強みでもあるので活かしていく。</li> <li>・ブランド力ある百貨店でのステージを踏んで就職することで自信に繋がる。</li> </ul>		

4. 学修成果		
【自己評価結果】		平均
26	就職率の向上が図られているか	A
27	退学率の低減が図られているか	A
【現状の問題点】		
質の高い就職と低い退学率が実現できている。		
【改善のための方策】		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・将来性をみて、ミスマッチのない就職先の選定と離職しない人材づくりをしていく。</li> <li>・退学予備軍の早期発見と対策を全員で取り組む為、面談や通常の実習、行事での学生の異変の見落としがない様に教員全員であらゆる角度からみていく。</li> </ul>		
【関係者評価】		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職希望者100%就職できている。</li> <li>・1年生は62名中、3名の退学者が出た。その内2名はコロナ禍での通学不安が原因だった。</li> </ul>		

5. 学生生活支援		
【自己評価結果】		平均
28	学生相談、カウンセリングに関する体制が整備・機能しているか。	A
28	各学校行事について、適切な事後反省を行い次回に活かしているか。	A
29	防犯・防災訓練の実施・防災計画の作成等、不法侵入・災害に対する整備は万全か。	A
30	進路活動に関する支援が整備され、機能しているか。	A
31	中途退学の理由、実状を適切に把握し、教職員で共有しているか。	A
【現状の問題点】		
退学防止のため、退学の原因とされる側の教育、即ち実習での発言や攻撃的な態度、失敗した際の対応などを事例研究としてアクティブラーニングで深めていきたい		
【改善のための方策】		
・専門的な指導はカウンセラーに依頼していくが、実習の話など対応できるものは相談体制を作っていく。		
【関係者評価】		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・きめ細かく学生に寄り添っていく。教員不足、休校により手厚く対応できていなかった。</li> <li>・3月はインターン先への挨拶回りができない為、学生とリモート面談を行い、状況や進路について話を聞く時間をとっている。</li> <li>・三島校は校内ではなく、直接カウンセリングの先生のところを訪ねる学生も多くいる。</li> <li>・中には他の子と同じように行動できない子もいる。学生任せではなく、もっと教員がサポートに入ってもらいたい。</li> </ul>		

6. 教育環境		
【自己評価結果】		平均
33	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	A
【現状の問題点】		
教育に必要な施設の整備だけでなく、手入れ等もよくされている。		
【改善のための方策】		
・恵まれた設備環境にあるので、オープンキャンパスや実習で大いに活用していく。		
【関係者評価】		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業後も職場で役に立つように使用方法やなぜそれを使う方がいいのかなどしっかりと説明、指導していく。</li> <li>・正しい使用方法で大事に使っていく。</li> <li>・実際に就職して、店に入り、機材を知っているのは強み。レベルの高い学校だからこそ揃えられるもの。また、昔とは違い、今の学生は理屈までしっかりと教えてもらえるので幸せだと思う。</li> </ul>		

7. 学生の受け入れ募集		
【自己評価結果】		平均
34	学生募集のための広報資料の表現・内容並びに広報活動の方法、時期は適切か。	A
34	入学案内(パンフレット)には志願者が必要とする情報が掲載されているか。	A
35	体験入学の時期、回数、内容は適切か。	A
36	入学者選抜の時期、方針、方法は適切か。	A
【現状の問題点】		
募集ツールをトータルすると入学希望者への情報提供はしっかりされている。		
【改善のための方策】		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・オープンキャンパスで実際に商品が並んだショーケースや販売の様子をみてもらうなどリアリティあるものにしていく。</li> <li>・写真や情報を常に最新の状態にしていく。</li> <li>・地元に通う利点説明を強化して入学者獲得に努める。</li> </ul>		
【関係者評価】		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・入学者が減少しない様、また、他校に負けない様に引き続き募集活動に力を入れていく</li> <li>パンフレットの見直しやオープンキャンパスでの説明など、より効果的なものを研究中。</li> <li>・学生スタッフに憧れて入学を決める子が多い。オープンキャンパスでの接し方、姿がかっこよく、自分もこうなりたいと憧れて入ってきた。</li> <li>・学生スタッフの力は大きい。力を借りながら、教員も教員の立場で学生獲得にパフォーマンスをしていく。</li> </ul>		

8. 財務		
【自己評価結果】		平均
38	・中長期的に所属学科の学費納入基盤は安定しているといえるか	A
39	・学科で策定した予算・収支計画・執行は有効かつ妥当なものになっているか	A
【現状の問題点】		
予算執行意識が高まっており、無駄を配慮した学納金の使い方になっていると思われる。		
【改善のための方策】		
・教員全員で意識していく		
【関係者評価】		
・引き続き、意識をもって仕事をしていく		

9. 法令等の遵守		
【自己評価結果】		平均
40	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	A
40	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	A
41	個人情報保護法を遵守しているか。	A
42	各種ハラスメントに対する防止・対応策が整備されているか。	A
【現状の問題点】		
SNSが学生教育にも欠かすことのできないツールになっていることから、ネットモラルについての教育は強化させたい。また、ハラスメントについては様々な関係で起こりうることから、啓蒙を今後も続けていきたい、		
【改善のための方策】		
・インターンシップ前や卒業前にハラスメントに関する道徳的な時間をとり、啓蒙活動に努める。		
【関係者評価】		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・インターンシップや社会に出る前に社会人としてのモラルを身に付けさせておきたい。</li> <li>・SNSが発達し、自由に情報が入るので事例などを出しながら注意喚起を行っていく。</li> </ul>		